

大戸川ダム必要性についての疑問

大戸川ダムは、桂川の下流部を開削して越水することなく計画流量を流すことによる淀川本川の流量増加を吸収する目的であるが、大戸川ダム流域は小さく、かつ桂川からは遠く、降雨の地域分布に偏りがあるので計算通りに思惑は進まない。この理屈には無理がある。取りやめになった、かつてのダムの利水容量と治水容量の交換と同様である。

たとえ、上記の単純な仮定が当てはまる場合においても、琵琶湖の放流量をしぼり、天ヶ瀬ダムを活用すれば、下流の流量を十分調節できる。大戸川ダムの洪水貯留量は琵琶湖水位に換算すれば、ほとんど無視しうる量である。最近の大雨を対象にした気象予報精度は向上している。

高額なダム建設事業費は、琵琶湖の後期放流を増すために優先的に使うべきである。この方が投資効率ははるかに高く、また琵琶湖周辺住民の賛同が得られるはずである。

今回出された河川整備計画原案に正誤表が出されているが、あまりにも訂正が多く、この原案がよく練れていないことを表している。短期間に集中させた委員会開催と合わせて、河川管理者が慎重にことを運んでいる姿勢には見えない。

(社)大阪自然環境保全協会 高田直俊